

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年8月18日(火)

《信じれば、神様が私の愛するもの全てを守ってくださる》

今日は、1時30分から病者の秘跡のために熊谷まで行き、30分前に教会に戻ってきました。疲れしました。しかし、心をこめて、このミサを捧げたいと思います。

今日の福音(マタイ 19・23 30)を読んで、二つのことについて考えてみました。

一つは、『金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。』という言葉です。弟子達は、「それならば誰が神の国へ入れるのか。」と文句を言います。するとイエス様は、「神様にはできないことはない。」とおっしゃいます。ペトロは「何もかも全て捨ててあなたに従ったのですが、何をくださるのでしょうか。」と言いました。「何もかも全て捨ててあなたについてきた」というペトロの言葉について、私たちにも似ているところがあるではありませんか。ペトロは本当に何もかも全て捨てたのでしょうか？ 実は、いつも逃げていました。本当に捨てるべき時には、全て強く握り、自分が持っているためにいつも逃げました。私たちはどうでしょうか？ 神様にいろいろなことを捧げていると言いながら、「あなたの命がほしい」と言われたら、喜んで、笑顔で、「はい」と命を捧げられる人が何人いるのでしょうか？ 私自身もはっきりとはいえません。だから結局、私たちには「何もかも捨ててあなたについてきました」という言葉は言えないのです。イエス様は、死ぬ時まで、本当に私たちに必要なことを要求されます。「これをもらえるか。」と。その時、私たちは「本当にこれをあげてもよいのか」迷います。そうやって、今まで握ってきたものがたくさんあります。たぶん皆様の中には、「私は今まで忠実に神様に従って来ました。」という告白ができる方がいらっしゃると思います。しかし、それを自慢しないでください。ある日突然、更に「それももっと欲しい」と言われます。その時、イエス様を全部信じて「あなたが望むならば私は惜しまず差し上げます。」と答えられるように信仰生活の準備をいつもしなければならぬことを意識しましょう。そんなに簡単なことではありません。なにもかも捨てたのではなくて、何もかも握ってきたのが正直な私たちの姿だと思います。よく考えてみますと、本当に、口では、頭では、心では、「イエス様に全部差し上げます」と言いながら、実際には握るものは全て握っています。そういう自分自身の姿を見ようとするのが、正しい信仰の道だと思います。

二つ目です。『わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子ども、畑を捨てた者は皆、その百倍もの報いを受ける。』イエス様のために家族を捨てた方はいますか？ イエス様の為に大喧嘩になって兄弟と別れた方はいますか？ 父を捨てた方はいますか？ 母を拒んだことはありますか？ 畑・自分の財産を信仰のために全て捨てたことがありますか？

二つの解釈ができます。実際に、このような生き方をするのは難しいです。また、実際にこのような機会もありません。400年前の殉教時代にそのような生き方をした人はいるかもしれませんが。親がものすごく反対しても、信仰の道を歩むため、深い信仰によって結果的に親を裏切った人々はあるかもしれません。しかし、今の時代はどうでしょう。「もしあなたがカトリック信仰を持つならば、私は自殺をする。」という親がいるのでしょうか？ 兄弟がいるのでしょうか？ 夫や妻がいますか？ いないでしょう。しかし私たちは、そういう機会さえ拒んでいます。

違う解釈をしてみましょう。なぜ、慈しみ深い神様が、ご自分のために家や家族を捨てなければならないとおっしゃったのでしょうか。それは、「神様を信じて、イエス様を信じてついていけば、神様が私の愛する家族全てを守ってくださる」という意味です。神様は絶対に、「親や家族、全てを捨てて私についてきなさい。」とはおっしゃいません。そんなとんでもない要求をされる方ではありません。

ある人が、神学校に入り、司祭になりたいと思っています。しかし、親の大反対にぶつかります。

その時、その人は、どうすることが一番正しい道でしょうか。私にそのような相談をする人が時々います。その時私はこのように言います。「ご両親が一番望んでいることは、あなたの幸せです。あなたが幸せになることが、ご両親に一番よくする唯一の方法です。そして、あなたの信仰が正しいならば、イエス様に任せてついていけばイエス様のご両親のこともちゃんと考えてくださいます。」と。

そのような考え方がなければ私たちはいつも計算する癖に陥ってしまいます。こっちのほうが大切か、違うほうが大切か、これが利益になるのか損になるのか、と。このように秤を使おうとすれば、私たちはいつも同じところをさまようものになってしまうことを意識しましょう。そういう意味で、信仰というものは決断だと思えます。思い切ることです。そういう気持ちで信仰の生活をもう一回振り返ってみましょう。

今日もまた悲しいことが韓国で起こりました。大統領であった金 大中・トマス・モアという人物を失いました。韓国では最近、本当に大きな方を三人亡くしました。一人は金 壽煥(スファン)・ステファノ枢機卿、二番目は盧 武鉉(ノ・ムヒョン)・ユスト元大統領、三番目は金大中元大統領です。

この三人の共通点はカトリック信者であることです。そして、宗教を越えてみんなから、この人ならば信頼できる、と思われた正しい生き方をした方々です。私は、政治家はあまり好きでなくて、いつも批判的な目で見ているんですが、このような心で政治をする人には頭を下げます。とにかく、イエス様の呼びかけによって逝かれたと信じたいです。

ありがとうございました。